

間質性肺炎、自己免疫疾患の原因のほとんどは  
EBウイルスかサイトメガロウイルスなどヘルペスウイルスである

私は 100%臨床家ですから、患者の病気を治すことが使命であります。従って、どうしても病気をなんとか治すための臨床的な話が中心になります。ところが病気とは、人体にエプシュタイン・バーン・ウイルス (EBV) やサイトメガロウイルス (CMV) などの病原体 (異物) が侵入した時に、人体の免疫が戦って殺そうとした時に生じるものですから、まず自分の武器である免疫を完全に理解すると同時に、敵である EBV や CMV のすべてを知る必要があります。だからこそ私は免疫を毎日勉強すると同時に、間質性肺炎を起こすと考えられる EBV や CMV の本体についてできる限り理解した後で、皆さんに分かりやすく述べようとしているのです。以前から私は、膠原病の原因は化学物質であると言い続けてきました。と同時にヘルペスウイルスが膠原病に関わりがあるということも示唆してきたのですが、やっと膠原病のひとつである間質性肺炎の原因となっている EBV と CMV について語る時がきました。

まず EB ウイルス (EBV) とはなんぞや、から話をしましょう。当然サイトメガロウイルス (CMV) についても述べるつもりですが、EB ウイルス感染症とサイトメガロウイルス感染症との鑑別は臨床的にはほとんど不可能である上に、一般の血液検査のデータからも鑑別はできないのです。従って、間質性肺炎が EBV によるものか CMV によるものかを診断できるのは、現在用いられている唯一の抗ヘルペス剤であるアシクロビルは CMV にはほとんどきかないので、アシクロビルを投与しているうちに KL-6 が改善していけば、EBV による間質性肺炎だと診断できるのです。このような診断の仕方を治療診断といいます。もちろん EBV と CMV が起こすのは、間質性肺炎だけではなく、間質性肺炎以外の肺炎も起こすことを知っておいてください。

EBV については、外国のみならず日本でも膨大な基礎研究が積み上げられていますが、CMV については、日本でも外国でも研究がほとんどされていないのです。Amazon を通じて CMV の英語の書物を購入しようとしても、ほとんど適当な本がありません。従って、EBV についてできる限り臨床とつながりのある話を詳しくすることで、同時に CMV についての話だと考えてもらっていいと思います。

突然、公用に近い所用が発生しました！残念ながら今日はここまでです。

2016/03/10